

第1回川口駅周辺まちづくりビジョン策定検討会 会議録

日時	令和3年7月29日(木) 10時から12時まで
場所	川口市役所第一本庁舎 6階 601大会議室
出欠	<p>(委員)</p> <p>■ 中村座長 ■ 児玉副座長</p> <p>■ 樋野委員 ■ 山崎委員 ■ 伊藤委員 ■ 町田委員 ■ 高橋委員</p> <p>■ 石川委員 ■ 田中委員 □ 熊井委員 ■ 齊藤委員 ■ 金森委員</p> <p>■ 小平委員 ■ 深津委員 ■ 清水委員 ■ 栗原委員 ■ 根岸委員</p> <p>■ 小西委員 ■ 野崎委員 ■ 早川委員 ■ 川田委員 ■ 大河原委員</p> <p>(オブザーバー)</p> <p>■ 川野政策審議員</p> <p style="text-align: right;">出席者：■ 欠席者：□</p>
事務局	<p>都市交通対策室 佐々木室長、西村室長補佐、島川主査、田島主事</p> <p>計画管理課 加藤課長</p> <p>都市計画課 高橋課長、小泉課長補佐、神戸課長補佐、小舘主任、関根技師</p> <p>再開発課 新井課長、三尾課長補佐、登玉主任</p> <p>株式会社日本設計 松本氏、田中氏、西村氏、長谷川氏、羽柴氏</p>
議事内容	
1 開会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開会の宣言がなされた。</li> </ul>
2 委嘱書の交付	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奥ノ木市長より委員に委嘱書が交付された。</li> </ul>
3 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奥ノ木市長より挨拶がなされた。</li> </ul>
4 座長・副座長の選出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員の互選によって、座長は中村委員、副座長は児玉委員に定められた。</li> <li>・ 中村座長、児玉副座長により挨拶がなされた。</li> </ul>
5 議題	<p>(1) 検討会の設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川田技監兼都市計画部長より、本検討会の設置について説明がなされた。</li> </ul> <p>(2) 検討会の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市交通対策室西村室長補佐より、本検討会の進め方について、説明がなされた。</li> </ul> <p>(3) 川口駅周辺の課題とまちづくりの方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市計画課小泉課長補佐より、川口駅周辺の課題とまちづくりの方向性について、説明がなされた。</li> </ul>

#### <委員意見交換>

- ・ 提示された課題のうち、再開発事業による避難所整備やシェアオフィス機能の増加等、民間投資によって今後解決が期待できるものもある。そのため、民間でできる対応と行政がすべき対応を仕分けるとともに、民間に対応させるべき事項については民間に働きかけていくべきであると考える。
- ・ 川口駅周辺ではまちづくりは進んでいるが、それぞれが別々の開発となっており、面的な繋がりが少ないため回遊性に乏しい。オープンスペースについても、数多く整備されているものの十分に周知できていないことが問題だと感じている。以上を踏まえ、今後はまちづくりを発信できるインフォメーション機能を充実するべきではないかと考える。
- ・ 川口駅周辺には公園等が多いと思うが、川口駅利用者を対象としたアンケートにおいて、川口駅周辺の改善すべき点として「緑地が少ない」「オープンスペースが少ない」という意見が多かったことに衝撃を受けた。
- ・ その原因は、利用者への情報発信不足のほか、まちの回遊性の不足にあると考え、説明のとおり、歩行者空間の快適性・安全性向上を図る必要があると感じる。
- ・ 課題は6つの視点（交通・都市機能・回遊性・オープンスペース・防災・都市景観）から整理されていたが、これらは独立したものではなく相互に関連していると考えられるため、再整理して検討を進めていただきたい。ポイントとなるのは回遊性、特に川口駅東口・西口の繋がりはないだろうか。
- ・ 説明のとおり、JR川口駅は乗入れ路線が1つしかなく、現在はコロナ禍で利用者が減っているが、コロナ禍以前、電車遅延時等は駅の外まで人が溢れている状況であった。これを踏まえ、中距離電車の停車について、検討が必要であると考えている。
- ・ 西口と東口の両方が十分に活かされるよう、うまく役割分担、連携するような計画が必要であると考ええる。
- ・ 旧そごう川口店の建物利用は、今後の川口駅周辺のまちづくりにおいて重要であり、再開発等含めて検討するべきと考えている。
- ・ 住民参加の視点から意見したい。住民参加というと、「住民の意見を聞き、計画に反映させる」ことと考えられがちだが、実際は、「住民が学び、その学びに生活の実感を混ぜて計画のアイデアを出してもらおう」プロセスが重要である。
- ・ また、川口市は、「本当に住みやすい街」1位に選出されているが、これからも選ばれるまちとするためには、「誰と一緒に住みたい」と思っているかという視点が大事である。例えば、住民参加の学びの過程で「あの人と住みたい」という関係ができると、川口市に住み続けたい人はさらに増えるのではないかと考える。
- ・ 現段階では難しいと思うが、具体的に個別の計画を検討する段階においては、住民が学び、意見を出し合うことのできる機会を設けると良いのではないかと考える。
- ・ DXの観点は重要だが、DXが手段でなく目的になってしまわないよう、DXにより何がしたいか目的を明確にすることが必要である。その目的とは、ユーザーが参加して、状況を変化させていくことだと考える。
- ・ そごう川口店が閉店したことで不便が生じている。進物や総菜等が買え、生活の様々な場面で重宝していた。閉店したことで働く女性等に負担が生じていることを懸念している。

- また、公園は子連れで賑わっているが、その他に軽食を楽しめる等ちょっとしたゆっくりできる場所が見つけにくいことが課題だと感じている。
- 住民参加に関連するが、新・旧住民が交流する機会が少ないと感じている。樹モールでは2000年に「燦ギャラリー」ができ、アートを通じた交流が行われている。
- 駅前では、新住民がコミュニティに参画できるような施設が住民の多さに比較して少ない状態となっているのではないかと。またはコミュニティ参画に対する情報提供の場が少ないのではないかと。
- コロナ禍で鉄道の使われ方が変わってきたことも踏まえてJR東日本では「Beyond Stations 構想」を今年3月にプレスリリースし、推進している。駅を通過するものではなく、繋がるものとして捉え、エキナカカレッジの開校や、サブスクリプションサービスの展開等、上野駅・秋葉原駅・八王子駅にて整備を進めており、その他の駅でも順次展開を検討している。
- 川口駅に「STATION BOOTH」を設置しているが、昨今新しい働き方への移行に伴いシェアオフィス需要が高まっていることから、今後シェアオフィス機能の更なる充実を図ることなどを検討し、地域の課題解決に役に立ちたいと考えている。
- また、前述の意見に関連して、総菜等を買える場所がないということであれば、そうした機能の増強等も長い目で検討したい。
- 中距離電車の停車については、川口市から以前より要望を受けており、JR東日本としても真摯に受け止めている。
- 今はコロナ禍で乗車数が減っているが、アフターコロナにおいても乗車数は完全には戻らないと予想している。
- 駅のあり方とまちづくりは、非常に密接な関係にある。駅周辺のまちづくりを踏まえつつ、コロナ後の環境変化や輸送上の他の駅利用者とのバランス等を考慮しながらになるが、今後の駅のあり方について考えていきたい。
- 説明にあったとおり、バス停の分散については、利用者からも乗り場の問い合わせ等が多く、当社も問題として認識している。改善に向け、一緒に検討していきたい。
- 同様に、当社もバス停の分散については、利用者からも改善の要望を頂いており、問題として認識している。
- その他に、駅周辺では路上駐車等も多い。バスの走行環境向上のため、協力しながら検討していきたい。
- そごう川口店の閉店以降、かわぐちキャスティ方向への人の流れが増加した。人の流れをうまく取り込むことは、賑わい創出のために重要であると考えます。
- 他都市と比較して駅前空間が狭いと感じる。駅前に進入する車両を減少すべきであるが、そのためには、駅前エリアの周辺を含めて広域的に検討することが必要である。
- そごう川口店閉店後の建物の活用について、川口商工会議所青年部からは、フリースペースとして一時的に開放してほしいという意見が上がっている。今後まちづくりの方向性について青年部メンバーへヒアリングを行い、次回以降の検討会で報告したい。
- 説明のとおり、川口駅周辺市街地整備構想では、駅前の通過交通を環状道路や周辺の迂回路整備によって排除する方針が設定されていたが、現在実現していない。特に環状道路南側の未整備部分は幅員が狭く、大型車両が通行できないため、大型車両が駅前を通る産業道路を利用することになり、これが渋滞の一因となっている。

- ・ 何を残し、何を再開発するかの方角性の整理が必要である。
- ・ 説明のとおり、JR 川口駅は乗入れ路線が1つしかなく、電車遅延時等は多くの人歩いて埼玉高速鉄道の川口元郷駅へ移動している。そのため、2 駅間のアクセス性が重要であり、これは JR 川口駅への中距離電車の停車が実現したとしても検討する必要があると考える。
- ・ 習慣的に川口駅周辺をウォーキングしているが、西口は歩行しやすいのに対し、東口は楽しいがやや歩行しにくい。
- ・ 目的を持って来街する方々の利用シーンを想定しながら検討を進めたい。また、無目的（時間消費的）に来街する方もいるが、そういった方々をどうやって惹きつけるかも重要である。引き続き、委員の方々の意見を聞きながら幅広い視点を持って議論していきたい。

## 6 その他

- ・ 栗原副市長より挨拶がなされた。

### <事務局からの連絡事項>

- ・ 追加でご意見等ある場合は、事務局メールアドレス宛てに8月12日(木)までに送付いただきたい。
- ・ 隈研吾氏、坂村健氏の両常任相談役による基調講演を9月下旬頃に予定している。開催方法や日程については後日調整してご連絡する。
- ・ 次回の第2回検討会は、10月下旬頃に予定している。

以上